



2月24日、メンバーYさんが飼っていた山羊のジュリーが、天に旅立ちました。昨年末に左前足を負傷し、その後、右前足も痛め立てなくなってしまうジュリー。雄山羊のジュリーは体が大きく、座ったままの状態では、脚が固まり壊死してしまうという事で、元酪農家さんの協力を得て、天井に滑車を取りつけ立たせるための木枠を作りました。

が、数日後には滑車で少し体を吊ると、後ろ足は自力で立てるようになりました。自分は食べなくても、キャベツやブドウ、イチゴなど、ジュリーが好む物を与えていたYさんは、厳寒の

たら、草の上を歩こうね！」と励ますと、顔を上げて私を見つめ、このまま元気になる信じられていたのですが、春を待たずに突然ジュリーは逝ってしまいました。

## ジュリーよ、安らかに

### 1匹の山羊の死に思う

深夜1時、2時に、体にかけた毛布が脱げて寒くないかと、毎晩ジュリーの様子を見に行く日々が2カ月も続きました。献身的に介護をするYさんのお手伝いに通い、「えらいねえ、ジュリー。治るからね。春になつたら、草の上を歩こうね！」と励ますと、顔を上げて私を見つめ、このまま元気になる信じられていたのですが、春を待たずに突然ジュリーは逝ってしまいました。

ジュリーにお別れをしました。Yさんの家に向かう車のラジオで、シリアの国で爆撃があり、子供たちを含むたくさんの方が亡くなったというニュースを聞きました。1匹の山羊のために、全身全霊で世話をしたYさんと、子供たちの命を犠牲にしても争いを止めない人たち。眠るよつに横たわるジュリーの体を撫で、手を合わせた時「同じ人間なのに…」という思いがこみ上げてきました。シリアの子供たち、ジュリーよ、安らかに。

(福澤 智子)

ふくざわ・ともこ NPO  
法人ドッグレスキューしおんの会